

川柳マガジンクラブ東京句会 1月

平成22年1月10日(日) 駒込学園にて

参加31名 出席26名 投句5名

秋山和子、伊藤三十六、飯島圭子、E.L.V.I.S、
小倉利江、小野六平太、加藤品子、菊地順風、
佐道 正、白勢朔太郎、関 玉枝、水野絵扇、
高田以呂波、棚瀬くんじ、土江裕美、丸山芳夫、
村田倫也、藤原宋子、星野睦悟朗、真野道雄、
南野耕平、山田こいし、加藤ゆみ子、甲野竜雄、
松橋帆波、植竹団扇、
欠席投句
石田きみ、河野桃葉、橋田一郎、正木三路、
ヨモギ。

自由吟句評会

児を守る母は猛虎もいとわない 桃葉

最近こういう母親がいるだろうかと思ひ、こういう母親が欲しいなど、そういう思いで頂きました。こいし母親と子を守るためにはそうだろうと思つ。よく詠まれていると思つ。圭子

作者コメントはありませんでした。

情けないATMが首をふる 六平太

意味としては、操作がまづくて拒絶されたということだろうが、首をふるATMというものが本当にあるのか見てみたいし、面白いと思つ。耕平

ATMという、機械が首をふるという点が、引っかかりました。朔太郎

作者 残高のことです。本人はあると思つていたのだが、機械の方がちゃんと覚えていた。

九条の首は伸縮自在です 朔太郎

日本の九条の扱い方をよく詠んでいる。六平太
九条というのは首というキーワードから、首を切るというイメージがあるが、ここではろくろ首をイメージした九条はできた当初から保革それぞれ伸縮自在に議論されてきた。そのことを首と伸縮自在という表現が象徴しているのではないか。エルビス

首は寒い、首が切られる、など、よくある首のイメージに伸縮自在という表現を持ってきたところがいい。帆波
拡大解釈、都合のいいほうの解釈など、伸縮自在という表現がいい。以呂波

伸縮自在というのは、国民のことだと読んだ。伸びたり縮んだり、もしかしたら変えるかもしれない。竜雄
憲法の解釈を巡って議論が続くことを詠んだのだろうが、そこからの意味がよく分からない。倫也

九条の入った句は食傷気味。九条は伸縮自在ではないのでは。三十六

伸縮自在で、どつとも取れるという意味かと思つが、もう一つわからない。品子

作者 首という表現に迷った。皆様のご評価をお聞きしたかった。

速度落せと駅伝の道にあり 芳夫

ぱつと詠んで、くすつと笑えた。睦悟朗
標識を取り込んだ面白い句。品子
一目見てよく分かる。六平太
句跨りの破調が、速度を上げているランナーのイメージを読み手に与えるのでは。上手いと思つ。E.L.V.I.S
カーブを下りてくる所で交通標識が画面に一緒に映る。

団扇

お正月の楽しみの箱根駅伝。実感句としていただきました。栄子

箱根路のことだと思つた。トレーニング期間にはこういう看板があつてもいいかも。順風

具象的で、はつきりと風景が見える。三十六
皆さんのお話を聞いてイメージがなりました。

朔太郎

作者 去年箱根駅伝を見ていて、路面に書かれている標識を見た。今年はこの辺りか再度確認しました。

お地藏へ御利益願う御身拭い 玉枝

見た目の韻と言つが、「御お」が続くのが面白い。

帆波

作者 御身拭いというのは京都にある言葉。路傍にあるお地藏様のお世話をされている方を見かけた時に感じたことです。

閻將軍姿見せたら超ド級 圭子

当然小沢一郎議員のことだろうが、姿を見せているし、超ド級かどうかも怪しいと思つ。いずれにせよ嫌いな政治家です。倫也

小沢一郎議員は与党の幹事長なので閻將軍というのはどうか。正

閻將軍という田中角栄の時に出来た言葉のイメージと、超ド級の意味が重なつてしまつ。落差があれば面白かったのだが。帆波

判り難かつた。玉枝

作者 これを詠んだ時は中国へ何百人も議員を連れて行った時で、その頃はまだまだあまり表に出ていなかったイメージがあつた。

私だつてトラの仲間と妻が言い こいし

正に川柳だと思つ。ご主人が奥様の気持ちを詠んだという点が良い。朔太郎
トラではなく、トラの仲間というところに優しさを感じる。道雄

どのような場面でトラの仲間と言つたのか知りたいのと、我が家ではトラと言えば夫なので、句意をお聞きしたい。ゆみ子

最初読んだときに「妻が言い」というところが判らなかつた。品子

作者 初め猫のことを書いた。「タマが言い」としたのだが、その後「妻」を使わせていただいた。

取り忘れ電子レンジで夜を明かし 和子

実感句です。玉枝

文章だと意味が判り難い。芳夫

ガスコンロが壊れたのでレンジを使って調理をしたのかなと取りました。裕美

しょっちゅう自分もやってしまっ。絵扇

同じく物忘れのご同輩という感じ。以呂波

ユーモアのある面白い句です。利江

選ばれた方々のご意見を聞いて意味が判りました。

こいし

取り忘れられたモノを具体的に表現する手法もあるか。

「取り忘れ」というところを、川柳における切れと考え

る見方もある。耕平

作者 朝起きると入っている場合がある。新しい機械は音が鳴る機能がついているが。

藪を見て虎を書いたとつなずいた 道雄

猫を飼っていますが、面白い句だと思います。品子

虎は竹やぶにいれば安全だと聞く。竹を書かないと猫か

どうか判らない。和子

藪と虎は定番だが、書いたのは誰か、領いたのは作者なのか、判らない。倫也

判らなかつた。「書いた」を「描いた」とすれば意味が

判るが。三十六

誰が領いたのか知りたい。虎の画が上手くない場合かな

と理解した。ゆみ子

下五の終わり方が文章のようであらう。芳夫

作者 孫などからの年賀で猫か犬かと思っていたら藪が

あるので虎だろうと領いたということです。

それなりにアンチエイジに燃えている 栄子

アンチエイジは感情がある言葉です、圭子

アンチエイジという言葉に反応しました。それなりにと

いうところが利いている。ゆみ子

作者 鏡を見ると白髪や皺が気になる。それでこのような

句を作ってみた。

人混みが怖い独りはなお怖い 三十六

読んだ瞬間にクスリと笑えた。睦悟朗

人混みにいると地震とかがあつたらと思ひ、家族が出か

けていて一人だと怖いと思つたりする。実感です。玉枝

秋葉原の事件、一人の帰り道の怖さなど世相を思い浮か

べた。裕美

今の世相を思い浮かべた。以呂波

破調仕立てだが違和感がない。世相とも取れるし心情と

も取れる。いい句です。倫也

若者の感じを詠んだのでは。正

とてもよく判るのだが、独りより人混みの方が怖いとい

う想と比較したみたい。ゆみ子

作者 本当の実感句です。

乏という形に見えてくる手相 帆波

主観だと思う。貧しいと感じているのだろう。くんじ

石川啄木が浮かんだ。乏しい、貧相、自分を謙っている。

面白い句だなと思いました。朝太郎

よくぞ乏という字を持ってきた。乏の字が像喻になっ

ている。ELVIS

なるほどの一言。感心しました。耕平

啄木が下敷き。右手だろうか。皆手を見る。団扇

乏を持って来たところが面白い。順風

見立ての面白さ。芳夫

どこからこつという発想が来るのだろう。乏以外の字なら

句にならない。ゆみ子

乏という字を単独で見せている手法は初めて。自分の手

を見てみた。三十六

手の中に字を見たところが凄い。正

作者 文字が比喩になつたときどのように読まれるか試

してみようと思つた。貧乏というより欠乏というニユア

ンスで世相を表わしてみたかった。

あなたとはもうお別れと受信拒否 睦悟朗

メール時代の別れかたの一つだろう。心の方はすでに受

信拒否なのだが、機能としての受信拒否も使う。実際は

もつと複雑だろうが。耕平

現代を捉えた面白い作品。こいし

作者 メールアドレスを変えた時、何人が通信ができなく

なつた。そのことを想として組み立ててみました。

切れたのにまだしもしと呼ぶドラマ 正

ドラマテレビの作り方の誇張。日常ではありえないのだ

けれど、見るほうも納得しているという事柄への発見。

意味が判らなかつた。利江

作者 最近ドラマのシーンで幾つか詠んでいます。

阿呆らしくなるバラエティーの熱演 倫也

お正月のテレビを見ていて感じたこと。同感です。和子

某局のドラマが、実際の地域とあまりにも違つ演出をし

ているのを思い出して、この句は上手く出来ているなど

思いました。道雄

内容ではなく、後半の十文字の印象がもう少し別の表現

がないだろうかと思つた。帆波

今のお笑いブームがこれまでのブームになく続いている

のは何故か。個々の芸人を見てみると、もの凄く考え

て言葉を創っているなど感じる必要がある。お笑いの笑

いと、川柳の笑い、その笑いを考える意味でも見ていま

す。耕平

作者 どのチャンネルもお笑いのバラエティー。思わず笑

つてしまう芸人がいない。一生懸命なのだろうがお気の

毒だと感じてしまつ。

ネックレス切れてもどらぬ愛もある 竜雄

いるんなことがあつたのだろう。いいなと思ひました。

ネックレスが切れたことと、愛が戻らないことの関係

順風

2

は日常散文的にはつながらない。」「て」で切れて後の文脈まで読んで読み手がどれだけの事を読みとる事ができるか。耕平

作者 下駄の鼻緒が切れると良くないことがある、というが、そついつことからの着想。ずっと続いていた愛にお互いが持っている不安。何か切れたことが、何かの兆候ではないかと思う不安な気持ち。

のり平に似た母ちゃんが呼びに来る 団扇

ほのぼのとするという点で選びました。こいし
実感句としていただきました。絵扇

外で遊んでいる子供を母親が迎えに来る場面。生活感があって、友達に「お前の母ちゃんのり平みたいだな」とからかわれているような場面が浮かぶ。芳夫

ほのぼのとして川柳らしい句だと思えます。正

川柳的には面白いと思うが、なぜのり平なのか意味が判らなかつた。三十六

情景は判るのだが、何を言いたいのかが判らなかつた。

以呂波

イメージが判らなかつた。実体験としての共有性が無かつた。帆波

作者 「ご飯」という課題での作。三木のり平が演じたお母さんの顔は日本の母の顔をしている。

よそ者はよそ者らしく一歩引き 二路

三十年くらい同じところに住んでいるが、古い街なのでいまだよそ者である。寄り合いの回覧板が時々回ってくるが出席すれば何か言ってしまういそいで参加したことはない。同感句です。倫也

作者コメントはありませんでした。

メモリアル じじの家ねと孫の言う 一郎

メモリアルの中の一字開け。切れとも考えられる。メモリアルホールかと思ったが、それを「メモリアル」と言いきってしまうのは無理があるか。耕平

メモリアルとじじの家が結びつかなかつた。玉枝

メモリアルの意味は記念日。だから良いこともあれば、こつこつともある。

作者 息子からの電話によると、よちよち歩きの孫が葬儀場を見て、じじの入る家だよねと言ったそついで、息子は虫の知らせかと不安になり電話したということでした。

二人で大笑いしました

音階を跳ねつつ渡るゼブラゾーン ELVIS

「音階」は「鍵盤」の方がいいかと思った。下六を直すとして作りすぎてしまつた。比喩の上手い作品だと思います。

団扇

若々しくていい句だと思つた。横断歩道がピアノの鍵盤のように見えて若い人が跳ねているよう。利江

ただ横断歩道を渡るだけのシーンを楽しいものにしてある。木琴を叩いているような感じ。芳夫

下六が引つかつた。リズム感はあるのだが。正

作者 ゼブラゾーン「い」「ん」は詠む速度が速くなるので五音に数えられるのではと六音にした。「バリアフリ

ー」という課題での作。

コトコトと豆を煮るよに暮らしたい 三毛キ

鯛焼きなどの餡を煮るのには、とても手間がかかる。それを思い出して、それに喩えた人生観かなと思えました。こいし

平和な暮らしを願つたという願望の句。コトコトと豆を煮るといふ部分に、平和な暮らしがにじみ出ている。感じのいい句。朔太郎

暖炉の火を見ながら物を煮る、落ち着いた暮らしをしたと思う。裕美

豆を煮たことがある人には羨ましいと感じるのでは。このようにマイペースで暮らしたいという気持ちが出ていていいと思つた。帆波

冬の日溜りの中で豆を煮る暮らし。とてもいい句だと思います。ゆみ子

句としては好きだが、「よつに」を「よに」と書くのはいいのだろうか。正

昔選ばれた作品に「よに」と表記したところ演歌ぽいといふ批判をいただいたことがある。できればよつに「が」がいいのでは。ELVIS

「豆を煮るよう」としてはどうか。利江

「豆煮るよう」ではなく「豆煮るよう」。ゆみ子

作者 あせらず、じっくりと物事に取り組み、平らかな気持ちで暮らしたいという新年の希望でもあります。

まだまだと玉砂利踏んで初詣で くさじ

まだまだといふところに一生懸命歩いて行く、疲れたけれど歩いて行く、そんな気持ちを感じ取りました。和子足が悪くても孫の宮参りなどに出掛けてくれた母を思い出した。その頑張っている気持ちを思いました。絵扇
まだまだといふところで、まだ死なないぞ、まだ生きるぞといふ気持ちを感ずる。明治神宮などの初詣ではそういう気持ちがないと行けません。圭子

作者 玉砂利だから、まだまだといふ気持ちが表現できると思いました。

行違交 互迷 想年 賀状 以呂波

字面からだ判るような気がするのだが、はつきりとは判らない。六平太

迷走でなくて迷想という表現に何か意味があるのかなと思つた。順風

作者 毎年賀状で行き違つたことがあるので、詠みました。迷想は、辞書で調べて、思い迷つたという意味で使いました。質問ですが「行違い」は「行違」と表記して良いのか、また「御免被る」などの表記を「蒙御免」と相撲の番付のような表記を使つても構わないでしょうか。

「行違い」は伝達性の点からも送り仮名は必要だと思います。「蒙御免」は実際に表現されたものを見た上で、皆さんで判断するのがよいかと思います。帆波

青雲の心に還る年始め 品子

私自身年初めに、今年こそ、今年こそと思つたのですが、そのような気持ちを実感としていただきました。栄子

句意は判るのですが、星雲とは大きな志なのでちょっとオーバーかなと思う。睦悟朗

作者 歳は取っついても気持ちは変わらない。新年になると若い頃の挑戦する気持ちを取り戻そうという思いで詠んで見ました。

蓮舫の子供二番で胸を撫で 順風

仕分け人の蓮舫さんの事を詠んでいる。見つけどころが上手いと思いました。品子
判りませんでした。くんじ

作者 事業仕分けの時に、世界で一番になる意味があるのかという話があって、蓮舫さんにお子さんがいると聞いた会話の中で生まれた作品です。

余命表撫でて電池を入れ変える 利江

電池を入れ変えるという表現が面白い。まだまだ生きてやるぞという気概を感じる。倫也

電池を入れ変えると言う表現を最近良く見るので、ちょっと食傷気味です。芳夫

電池を入れ替えるということは、もう一回甦生したいということだろうが、判らなかつた。くんじ

作者 24番の青雲の心の作品と同じような意味ですが、自分を再生させる、マンネリにならないために活を入れるという意味を、電池を入れ変えると表現してみました。この機会に、寿命と余命の違いを確認してみましよう。

目出度さも中途半端に厄が明け 絵扇

面白い句だと思う。中途半端というところがいい加減でいい。おそらく去年が厄年だったのでは。竜雄

判りませんでした。圭子

作者 厄というものに敏感で、怪我などがあつた時など、これ以上大きなことがなければいいなという意味で作りました。

まだ少し元気で居そう夢を足す きみ

同年輩からの年賀状に、あと何年生きてあれもやろうこれもやろう、と書かれていた。そついったことを思い、いい句だと思いました。睦悟朗

自分も含めてだが、何時までも夢は大事だなという思いがあります。玉枝

私自身まだ元気でいられそうだが、もう夢はないです。くんじ

カラオケとダンスも好きなのだが、この句のように、今年には川柳に加えてあと二つを楽しんでみようと思う。道雄

類想句が多いと思う。夢という言葉もそんなに珍しいものではない。夢の代わりに「絵の具」という言葉を用いればもっと広がるのでは。三十六

非常に分かりいい句だと思いました。六平太
作者コメントはありませんでした。

明け方の辞書に眠れる言葉たち 耕平

遅くまで起きていて、寝る前に書いていた文章を読むと直したいところが出てくるが、明日にしようと思う。眠

れる言葉たちという表現が上手いです。竜雄
明け方の辞書にというところに含みがあるのだろうか判らなかつた。利江

明け方の辞書、眠れる言葉たちという表現が気になる。判らないけれど時間を掛けて鑑賞させてもらいたいという思いに駆られる作品。帆波

眠れるの「る」が「可能」なのか「存続」なのかを考えて見たい。ELVIS

作者 沢山？を付けて貰いたくて作ってみた。意味が一義に取れないような工夫をした。辞書に眠れる言葉と日常使われない言葉、その使われない言葉が辞書に存在していることに方向性を持たすために明け方とした。

初夢や覚めた鏡に元の裕美 裕美

作者名が入っている。句評会の前提を超えたところが凄。私たちはもっと自由に句を詠んでいいのだという事を気付かせてくれた。帆波

作者 夢の中で自分がチェ・ジュになっていた。目が覚めたら元の自分だった。

機種変の利かないワタクシを生きる ゆみ子

実感句としていただきました。栄子

不器用に生きて、頑固一徹、自分を変えられない、そんな生き方もいいなと思いました。利江
いい作品だと思えます。こいし

作者 ケータイの機種変のことですが、これからロボットが生活の中に入ってきたとき、ロボットは機種変するだろうが、自分は変わらない。そんなことを思い、詠みました。ワタクシをカタカナにしたことと、「ワタクシ」を「ニンゲン」とした場合どうなのか、ご意見をお伺いしたい。

・機種変でケータイと結びつくのでカタカナで良いのでは。利江
・ニンゲンでは面白くないですね。正



課題吟「富士」(表現自由)

加藤品子選

20 秀
 自殺用ヒ入口もある富士の山 芳夫
 宇宙船富士を日本のヘソに見せ 利江
 富士はどこ富士の見えない富士見坂 道雄
 特攻機別れを告げた薩摩富士 朔太郎
 富士山も頭もがれた過去を持つ ゆみ子
 球子描く富士の確かな面構え 睦悟朗
 ふるさとは富士の裾野を庭にする きみ
 三島には美人が多し富士の水 三十六
 父と母二人の顔で富士が待つ こいし
 赤富士の縁起にすがりたい景気 裕美
 頂上が上へずれ出す富士額 正
 富士山の見える所に墓を買い 栄子
 帰郷して車窓の富士に迎えられ 玉枝
 厳寒の富士に生き様諭される 利江
 酸素まで買ってようやく富士の峰 順風
 富士にまた許されている山男 エルビス
 疑ったことはないです富士の水 耕平
 噴く噴くと富士が時おり切るカイド エルビス
 雪化粧剥れ霊峰ゴミの山 絵扇
 富士見坂バベルの塔がよく見える 帆波

特選

女湯の富士の裾野を見てみたい 帆波
 北斎の富士八コモノに隠される 睦悟朗
 世相どうあれ一万二千尺聳え きみ

お正月早々おめでたい課題だと思いました。切り口も色々あり、難しい面もあったと思います。品子

課題吟「富士」(表現自由)

伊藤三十六選

20 秀
 富士山を直滑降で降りる夢 倫也
 赤富士の縁起にすがりたい景気 裕美
 東都から富士を消し去るピルの群れ 以呂波
 赤富士に抱負を述べるレンズの目 桃葉
 夢色のペンに持ち替え描く富士 ゆみ子
 富士にあわれない 標準サイズ 耕平
 富士山の見える所に墓を買い 栄子
 富士山も頭もがれた過去を持つ ゆみ子
 特攻機別れを告げた薩摩富士 朔太郎
 富士額あたら茶髪に厚化粧 以呂波
 メル友へ旅の宿から今朝の富士 和子
 酸素まで買ってようやく富士の峰 順風
 自殺用入口もある富士の山 芳夫
 富士登山自慢している山女 栄子
 雪化粧剥れ霊峰ゴミの山 絵扇
 噴く噴くと富士が時おり切るカイド エルビス
 驕る富士世界遺産に袖にされ 圭子
 富士を見る最上階に住む余生 玉枝
 赤富士の絵を自慢するマイルーム 栄子
 ふるさとは富士の裾野を庭にする きみ

特選

絵心を誘う初冠雪の富士 朔太郎
 宇宙船富士を日本のヘソに見せ 利江
 富士の水飲みつつ富士の皮膚になる エルビス